

## 第8回根研究集会報告

鯨 幸夫（金沢大学教育学部）

第8回根研究集会が11月22日（土）、石川県職員会館（金沢市）を会場にして開催されました。連休中といった不都合な日程にも関わらず41名の参加者があり、7課題の口頭発表と7課題のポスター発表が行なわれました。ポスター発表会場では熱心な議論に花が咲き、運営上の都合で議論を中断してもらわなければならない程の盛況ぶりでした。午後の部では根研究会賞の授賞式が行なわれ、森田会長から賞状と記念品（研究会特製のトレーナー）の贈呈が行なわれました。受賞者（所属は現在のもの）および記念講演の題目は以下の通りです。

学術功労賞：巽 二郎氏（名古屋大学農学部）

「根系構造のフラクタル解析」

学術功労賞：梁 正偉氏（農林水産省北陸農業試験場）

「イネ短根体突然変異体の作出と発育形態学的・遺伝学的解析」

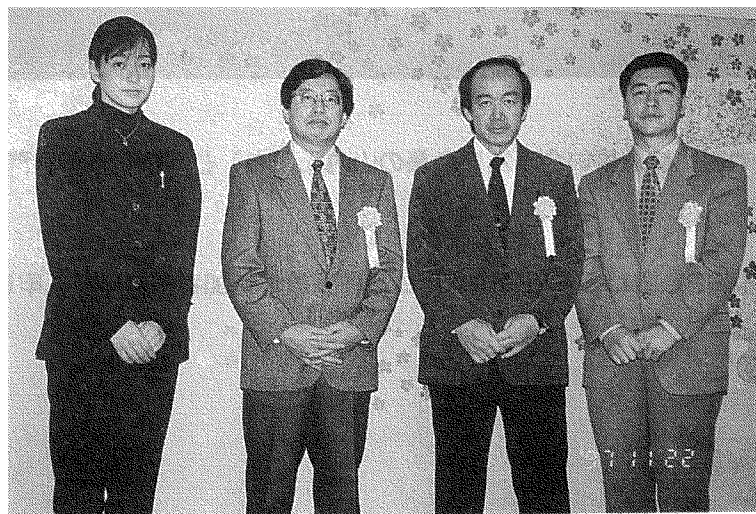
学術奨励賞：赤坂庸子氏（千葉大学大学院）

「ラッカセイ根系の形態的特製と根粒形成」

学術特別賞：国際半乾燥熱帯作物研究所日本政府特別プロジェクト

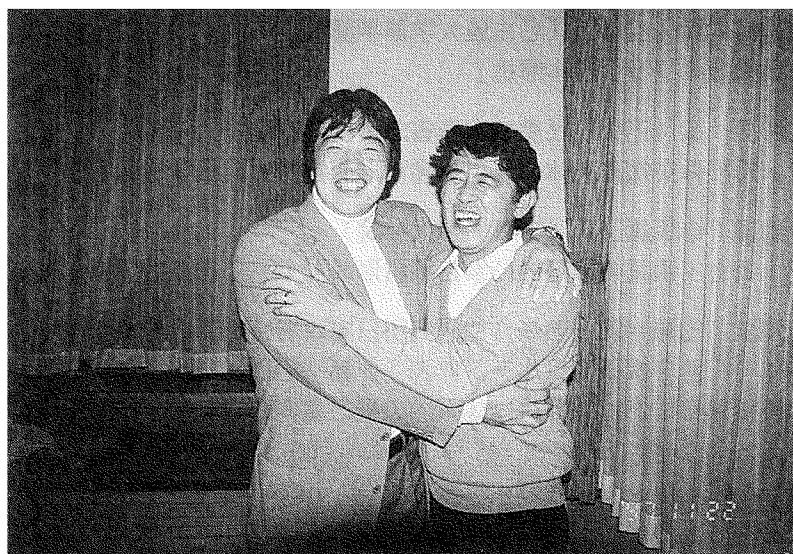
第2次研究グループ代表 伊藤 治氏（国際イネ研究所）

「半乾燥熱帯における作付け体系内の根と窒素の挙動」



1997年度根研究会賞受賞者の方々（左から赤坂、巽、伊藤、梁の各氏）

記念講演終了ご、今回根研究会賞を受賞された4名のお祝いと会員相互の親睦を目的とした懇親会が開催されました。冒頭、根研究会事務局が東京大学から名古屋大学に移ることの説明があり、これまで事務局代表として多大な貢献をされた阿部 淳氏に感謝状が贈られ、出席者は大きな拍手で感謝の意を表わしました。運営委員会の好みで選んだ石川の地酒もテーブルに並び、懇親会は賑やかに、そして活発な研究談義に花を咲かせながら進化したため、会場使用の時間制限が過ぎても、閉会を告げる言葉を発することがためらわれたほどでした。根研究会次期会長 山内 章氏（名古屋大学農学部）、同副会長 大門 弘幸氏（大阪府立大学農学部）両氏による研究会発展への力強い言葉をあとに、参加者は雨の降る金沢の街に消えて行きました。更なる親睦を深めるために。



懇親会で固い絆を誓い合う次期会長の山内氏（右）と同副会長の大門氏（左）

連休中の日程にも関わらず出席頂きました、多数の参加者各位にお礼申し上げます。

以上